

視察の目的

米価下落と生産コスト高騰の挟み撃ちは、農家の生産意欲減退を招き、ひいては営農撤退につながりかねない。
この状況を克服するため、自助努力でコスト削減を図る方法として、令和4年9月に当委員会では実証試験報告を受けた「植物育成培地の利用」が有効ではないかと思い、製造現場の視察を行った。

【令和5年2月17日】

大川原化工機(株)及び同社農業生産技術部

〇〇県〇〇市

植物育成培地では

植物育成培地(特許5825909号)は、現在未利用資材である「粉殻」を利用し、特殊加工したものである。
一般的な山土(黒ぼく土)に比べ圧倒的に軽量で、製造運搬コストの削減が図れる。
育苗作業においても軽量化による作業の効率化、作業者の肉体的負担の軽減等につながる。さらに人件費の削減も期待できる。



【令和5年2月17日】

東京農工大学

〇〇県〇〇市

タイトル(仮)

飯南町と東京農工大学との包括連携協定は、令和2年11月13日に締結された。
その翌年から新型コロナウイルス



下赤名のほ場で土壌調査



講義中の風景

製造現場では

別に特殊な機械や設備があるわけではなく、既製品の組み合わせのように見えた。逆にそのシンプルさに比べ、できあがった製品(粉殻を主原料にした培地)の精密な仕上がりには不思議な感銘を受けた。

粉殻と他の資材を混合するミキサーは、回転するヘラの角度の調整が最も大切な部分だそう。そのあと、回転する高温に加熱された筒状の中を通すことにより水分の除去によるカビの発生防止、殺菌、雑草種子の死滅を図っていた。



植物育成培地の将来性

- ①密苗植栽ができる田植機が発売されたことで、密苗育苗に関心が向いており、それに適した培地の開発が待たれている。
- ②植物育成培地は、水稲の育苗だけでなく、混合資材を変えることにより園芸用培土として、トロ箱栽培の培地として活用可能である。



講義後の生産者との意見交換

大学からは
①今は基礎的な実習が中心だが、今後は地域資源や地域課題を掘り起こし卒論のテーマになるような活動につなげていきたい。
②小麦粉が高騰しており、それに変わるものとして最も有力なのは米粉である。有望な品種(収量や米粒の硬度等)が本校にあるので、実証栽培による検証を行いたい。
③現在は高校との交流が主体だが、小・中学校とも連携を深めたい。高校生には本校への推薦枠の創設を検討したいと話しておられた。